

令和3年度 第1回 交野市基本構想審議会

【日 時】 令和3年10月13日（水）午後3時～午後5時10分

【場 所】 交野市役所別館3階中会議室

【出席者】 委員18名（欠席2名）

事務局7名

【傍聴者】 なし

- 【議 題】
1. 第5次総合計画基本構想策定方針について
 2. 交野市まち・ひと・しごと創生総合戦略について
 3. 第4次総合計画基本構想のまとめについて
 4. 市民意識調査の結果について
 5. その他

1. 開会

（市長あいさつ）

- 本日は交野市基本構想審議会に、多忙の中、各界でご活躍の皆さま方にお集まりいただき心より感謝申し上げます。併せて、この審議会委員を引き受けていただいたことを重ねて感謝申し上げます。
- 緊急事態宣言も明け、新型コロナウイルスの感染は、大阪府下も小康状態が続いている。交野市もワクチン2回目接種は75%を越えつつあり、多くの方々にワクチン接種にご協力をいただいている。ニュース等でもご存じのとおり、国は3回目のブースター接種について動き出した。担当部署も秋から冬、来年にかけて3回目接種の準備に着手する状況となっている。引き続きワクチン接種も含め、感染防止、感染拡大予防について、しっかりと市民の皆様と、ご協力いただきながら進めてまいりたい。これまで市としても様々なお願いをしてきたが、改めて引き続きご協力をよろしくお願いしたい。
- 基本構想については、平成23年の地方自治法改正により策定義務はなくなったが、以降、本市において条例を制定し、基本構想を掲げて取り組んでいる。令和4年度に現行の基本構想が終了を迎えるため、次期に向けての基本構想の議論をしっかりと積み上げていかなければならない時期となったため、皆様にお集まりいただいた。
- 後ほど事務局よりその背景、議論いただく対象等について説明する。今はコロナがあるが、自治体が置かれている状況としては、大きくは少子化、高齢化、人口減少、施設の老朽化がある。先日、和歌山で水道管が大きく破損し、1週間近く6万戸の方々に影響が出た。直前に交野市も水道管破裂により緊急作動装置が作動し、破裂管エリアは大きくないが、水圧が下がり根元にある約1万世帯に関わる水道管の根元が一時遮断した。市民の皆様にご心配、ご迷惑、ご不便をお掛けした。
- 当日中に復旧したが、しばらくの間、汚れ水等、市民の皆様にご迷惑をおかけした。都市生活を今後もしっかり維持する中で、インフラや様々な学校等の公共施設を含めて老朽化が進んでいるという背景がある。限られた財源で維持していく大きな課題もあるが、一方ではグローバル化、顕著にあるのはICT技術によりコミュニケーションがどんどん広がる中で、教育分野でもビジネス分野でも可能性が広がっている。その中で役所の在り方もどうあるべきかという話もある。
- 交野市においては、第二京阪が開通10年を超え、沿道エリアでは企業誘致、住民誘致につながる具体的なまちづくりが形になってきた。既に今年中に1社が、大型の物流センターとして創業、稼働

し、関連業務とトータルで 1,000 人規模での方々が関わる施設が完成した。これからは住民誘致に向けての住宅も整備される状況となっている。

- そうした様々な状況を踏まえながら、これから交野市がどの方向にどういう形で進んでいくべきかを皆様に意見を出し合っていていただいて、これから先も交野に住む方が住んで良かった、交野市外の方が交野に住みたいと思っただけのように、企業も交野で創業して良かったと思っただけのような、まちづくりを目指すための大きな指針づくりを皆様をお願いするところである。
- これから来年にかけて長丁場の中で皆様ご協力をお願いする。皆様には忌憚のない意見、そして交野を前に進めるための様々な知恵をいただけるよう心からお願い申し上げ、審議会のキックオフに当たってのお願い、御礼のご挨拶とさせていただきます。これから新たな指針づくりに向けて、ご協力をよろしくお願いする。感謝申し上げます。

2. 委員委嘱及び会長・副会長の専任

- 交野市基本構想審議会条例第 5 条第 2 項の規定により、委員の互選により選出。
- 下村委員を会長、小伊藤委員を副会長に選出。

3. 諮問

- 市長により第 5 次交野市基本構想について諮問。
- 交野市基本構想審議会条例第 2 条の規定により次の事項について諮問。諮問事項 1、交野市基本構想および基本計画の策定に関する事。諮問事項 2、交野市まち・ひと・しごと創生総合戦略に関する事。諮問事項 3、その他基本構想および総合戦略の策定に関する事。
- 委員出席状況について、20 名中 18 名の過半数以上の出席。交野市基本構想審議会条例第 6 条第 2 項の規定に基づき、会議が成立することを報告。

4. 議題

【主な質疑・意見等】

議題 1. 「第 5 次総合計画基本構想策定方針について」について

<事務局から資料 1 「第 5 次総合計画基本構想 策定方針」に沿って説明>

議題 2. 「交野市まち・ひと・しごと創生総合戦略について」について

<事務局から資料 2 「交野市まち・ひと・しごと創生総合戦略について」に沿って説明>

(委員)

- 資料 1 「2. 策定にあたっての考え方」について、新たな課題への対応で「課題やテーマ、また、SDGs」と SDGs の取り扱いが課題やテーマに入ることに少し違和感がある。

(事務局)

- 課題という認識ではなく、しっかり計画上で位置付けていくことが求められる 1 つの大きなテーマであり記載した。総合計画進めていく上で SDGs の 17 のゴールに向かってどういうふうに取り組むかを整理する必要があり、態度表明として記載している。

(会長)

- SDGs の 17 項目の該当を体系と同時に明示することになる。テーマと施策の対応を次回以降決めていきたい。

(委員)

- 前回の交野市総合計画審議会で、基本構想が審議会で作られる過程で、交野暮らしの夢づくり会議があったと思うが、それは今回の市民ワークショップに該当するのか。

(事務局)

- 議論していく場として考えており、同じ機能と事務局は考える。

(委員)

- 私は、第4次基本構想策定時に「みんなの“かたの”の夢」を作った。先日、第1回目の市民ワークショップがあったが、次世代を担う職員が参加していることが良かった。直に市民の夢や色々なことに一緒にワークショップで取り組めることが楽しみだと期待している。

(会長)

- 若い年代層の意見を聞くことは非常に大事である。交野市の将来を担う方々が意見を言う場が設けられていることは大事である。
- 基本構想の計画は政策企画課だが、実際の仕事では、縦割り行政ではなく横つながりの行政を担うことが大事である。若い世代、横割りの考え方や動かし方といったこともワークショップに盛り込まれるようにするため、その観点でもチェックとご意見をいただきたい。

(委員)

- 基本構想は、市の最上位計画として作成されたと思うが、市長戦略との兼ね合いも審議会等で確認しながら進めると思う。それに関して考え方の整理を聞きたい。

(事務局)

- 第4次総合計画基本構想の特徴に市長戦略があった。しかし第5次総合計画は、行政としては市長の思いをしっかりと受け止めることは当然であり変わらないが、市長戦略の名前をそのまま踏襲せず、誰が市長であっても行政として網羅的な施策の守備範囲を示した、一般的な基本計画として整理することを考えている。
- 横断的なものは、例えば実施計画部分や重点取り組みの形で位置づけることが、現実的には可能だと考えるが、今後の議論の中で知恵を借りながらまとめていきたい。

(委員)

- 本市の人口動態が、2017年から2020年のうち2019年だけマイナスとなっているが、要因は分析されているか。

(事務局)

- 詳細な分析はできていないが、基本的には住宅等の供給は一定継続しており、そこに若い世代の方が入っている。2019年だけマイナスの要因であるが、傾向として0歳から14歳までのプラス、30歳から39歳はプラスの傾向があるが他の都市に比べて若干少なく、併せて就学・就職の方が交野から沢山出て行く傾向が続いており、そのプラスマイナスが2019年は下振れに働き、1年だけのマイナスとなったと認識している。

(委員)

- 30年~40年後に、交野市の人口が現在の7万人から5万人弱になることが、これから考えなければならぬ直近の課題だと思う。それを踏まえて何をするかを議論することに関連して、細かいことの蓄積が重要だと思うため、分析を行ってはどうかと思う。

(会長)

- 大学進学と就職の年代層が減ってきている。逆に子育て世代、若い方々の転入があり子供も増える人口推移であり、転入いただく施策はどんどん行って良い。一方で、学校誘致等は難しい面はあるが、転出に対しての施策をどこまでできるかは重要な課題であり、皆様と一緒に考えていきたい。

議題3. 「第4次総合計画基本構想のまとめ」について

<事務局から資料3「第4次総合計画基本構想のまとめ（みんなの“かたの”基本構想のまとめ）」に沿って説明>

(委員)

- 満足度等の指標について「市民2,000人を対象に調査を行い」とあるが、回答者属性、世代や男女別等でかなり傾向が見えるのではないかと思う。それを付け加えていただければ色々な課題や特徴が見えてくると感じた。

(会長)

- 参考程度に属性別のクロス集計をしてはどうか。2,000人を無作為抽出だと思いがいかか。

(事務局)

- 今回提示していないが、クロス集計資料はある。2,000人に対しては、令和元年度、平成24年度も老若男女偏りが出ないように配慮した上で、同様に無作為抽出を行っている。本市の回収率は良く3～4割程度をいただいている。詳細部分を示した方が良いため、対象や方法に関する資料を作成し、次回までに送付か提示したい。

(会長)

- 統計的に耐える数字であると理解している。研究者は地域別集計やクロス集計を行いたくなるが、主として公正平等に全地域対応することを考えれば、地域別はやらなくても良いという考えもある。
- ただ、地域別で良い指標が異なる可能性はあると思う。街中と縁辺部の住民で相違意見が発生する可能性もあり、15歳以下や働き盛りの年齢と退職者の年齢で分けると意見が違うという可能性はあるが、自治体では全般で集計されることが多く、どこの市でも同様であると思う。しかし、どのような属性かは非常に大事であり、提示いただけるのであれば、よろしく願いたい。

(委員)

- 私は「みんなの“かたの”基本構想」づくりから関わった者で、10年間の経過を見てきた。成果と課題について上手くまとめられており本当にこの通りだと思う。当時の構想が出来たときに、私たち市民も知恵を出して汗をかかなければと言った。当時は、市民が動くことは厭わずメンバーが元気だった頃であるが、現在メンバーも高齢化してきており、団体の維持をどうするかという局面を迎えている。課題の二つ目の地域の担い手の高齢化や女性の社会進出で学童保育をどうするかという点も上手くまとめられており、深く関わってきた者として、これらの要素を入れた基本構想にしなければならぬと感じた。

(委員)

- 第4次の基本構想の評価・成果がどうかを評価するは難しく、この基本構想は“みん活”ということで市民が色々な立場で、市民・団体自身が市民参加をしながらまちを盛り上げていくことがメインのコンセプトであった。そこが仕組みづくりとしてどれぐらい生かされ達成されてきたのか。計画期間中に常にそこに立ち返って市政運営されてきたかという、そうでもないときもあった

とも思う。この第4次基本構想の中でどこまで民活が達成されたのか、足りなかった点はどこなのかを時間を掛けて総括したいと思った。

(会長)

- プレーヤーや主体が誰かという点に対して成果を指標化することは難しいと私自身は思った。基本構想のみならず基本計画までしっかりと作り込んで、その中で重要業績の KPI について指標化をしっかりと組み込みながら、基本計画では4年間ごとにしっかりと評価する仕組みを設ける。構想では12年間チェックできるような仕組みを設ける。成果は出ているが、指標化やその他取り組みを具現化させる方法については、基本構想、基本計画の中で、前回の見直しを兼ねて、しっかりと取り組んでいきたい。

議題4. 「市民意識調査の結果」について

- 残り時間の関係で「市民意識調査の結果」については次回審議会の報告事項とした。

議題5. 「その他」について

<事務局から参考資料2「市民ワークショップについて」に沿って説明>

(委員)

- ワークショップは素晴らしく、計画どおり進んで欲しいと思うが2点述べたい。1つ目は参加者数が非常に少ない。2つ目について、交野市は都市部と農村部あるいは旧地区と新地区といった様々な地域性があると思う。地域によって出てくる課題と、地域全体の課題とが数多くあると思うため、できればブロックごとにワークショップをされると良かったのではないかと思った。地域の福祉計画では、例えば坂道の多い地域、病院・医療機関がない地域、買物不便地域等の様々な地域課題が出てくるため、そのようなことも審議会の34人、市民17人では掴みにくいのではないかと感じた。

(事務局)

- ワークショップはそのような形ではないが、各地域に対してはアンケート行う形で意見を伺ってきたいと考えている。

(委員)

- 色々な商店街の会長がワークショップに非常に興味を持ったが、時間帯の関係で参加が難しかったため、実施時間帯も考えてもらえれば参加者が増えると思う。

(委員)

- 本ワークショップの企画は良く練られていると思う。若手職員が入ることも良いと思う。参加者はどのように選任されたのかをお聞きしたい。

(事務局)

- 市役所の各部局から希望者に参加いただいた。行政ジャンルを広く捉えたかったため、特定部局ではなく、それぞれの部局に対して最低1人以上の参加とした。

(会長)

- 多方面の分野に関わるテーマ出しや、基本構想の段階で5つのテーマが出るならば、その5つのテーマを基にワークショップを実施することも方法の一つである。都市計画分野では、地域別構想に関わる内容は、地域ごとに課題を設定して実施することもよく行う。三十数人の方から有効に意見を頂く方法を検討いただき充実した報告をお願いしたい。

(委員)

- 地域性については、山手の居住者、交通の便が悪い住民等といった形で、既に第1回目のワークショップで既に話題に出た。皆がそれぞれ持っているものが違うと感じた。

(会長)

- 意見が出た芽をつぶさないような形のワークショップをやっていただきたくお願いしたい。

5. 閉会

- 議事について終了。
- 第2回審議会日程は、今後事務局から報告する。

(担当政策企画課)